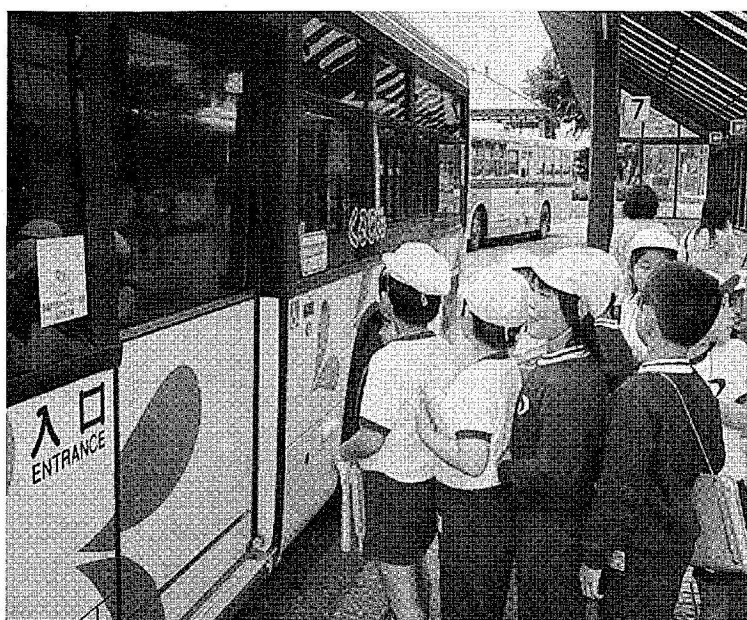


# 社会科の研究

矢嶋 義宏



## 🔍 キーワード

人々の取組の意味    複数の視点から考えていく教材の提示    意志決定

## 📢 主張

社会科では、「社会生活を確かにとらえ、将来の社会やその中で生きる自分の在り方を見出そうとする子ども」を求める。

本研究では、社会的事象に内在する人々の取組の意味の顕在化に着目した。取組の意味を明らかにしていく中で、そこに寄せる人々の願いが浮き彫りとなり、よりよい社会生活をつくっていく人々の知恵や努力の大切さがとらえられていく。そして、価値判断場面においても、人々の知恵や努力の大切さを判断のよりどころにしながら、自分なりに意志決定していくことができるようになる。

そのために、人々の取組を複数の視点から考えていく教材を提示し、これまでと違った側面から取組の意味をとらえ直していくことによって、社会的事象に対する見方を更新していく。さらに、人々の取組に対して共感した行動や考えについての話し合い活動を組織することで、社会的事象に対する自分なりの意味をはっきりさせ、これまでの社会認識を再構成していく。

このような学習を通して、「社会生活を確かにとらえ、将来の社会やその中で生きる自分の在り方を見出そうとする子ども」の具現を目指していく。

# I 社会生活を確かにとらえ、社会とよりよいかかわりをもって生きようとする社会科

## 1. 社会科で求める子ども

### 求める子ども

社会生活を確かにとらえ、将来の社会やその中で生きる自分の在り方を見出そうとする子ども

### 「意欲・態度」

自分と社会的事象とのかかわりを深め続けようとする

### 「中核となる学力」

社会的事象を関係的にとらえる力

社会科では、求める子どもを「社会生活を確かにとらえ、将来の社会やその中で生きる自分の在り方を見出そうとする子ども」と設定した。これは、よりよい社会を具現しようとしている人々の取組の事実とその背景にある願いとを関係づけ、社会的事象の意味を共感的にとらえていく中で、自分自身の社会生活に目を向け、これからの社会に対してどのようにかかわっていくかを考えようとする子どもである。

最近の社会科授業では、社会の中でよりよく判断し、行動できる子どもを育てるという観点から、価値判断場面を取り入れて、子どもが意志決定していく授業が大切にされている。しかし、意志決定がされるまでに社会的事象にかかわる人々の願いや苦労を十分にとらえさせないまま、学習が進められてしまうことに問題があった。この状況の中で、社会とどのようにかかわったらよいかを問うても、これまでの自分の価値観が強く出た意志決定がされてしまいがちであった。

そこで、本研究では、子どもたちが学習の中で社会生活を支える仕組みや働きの背景にある人々の思いや願い、努力を明らかにしていくことを大切にする。このような「社会的事象に内在する人々の意味」の顕在化を促すことで、よりよい社会生活をつくっていく人々の知恵や努力の大切さがとらえられていく。そして、価値判断場面においても、人々の知恵や努力の大切さを判断のよりどころにしなが、自分なりに意志決定していくことができると考える。

授業では、社会的事象に内在する人々の立場の違いや仲間との考えのちがいを取り上げ、人々の取組を複数の視点から考えていく教材を提示する。子どもたちは、人々の取組を相互に比較したり、関連させたりすることによって、その意味のとらえ直しが促され、自分なりの社会的事象に対する見方を更新していく。さらに、人々の取組に対して共感した行動や考えについての話し合い活動を組織することによって、社会的事象に対するとらえを再構成していく。

このような学習を通して、「社会生活を確かにとらえ、将来の社会やその中で生きる自分の在り方を見出そうとする子ども」の具現を目指していく。

## 2. カリキュラム改善の視点

### (1) カリキュラム開発の視点

「人々の取組の意味の顕在化」を図るために、社会的事象を関係的にとらえる力の段階性を以下のように描き、目指す子どもを育てていく。

### (2) カリキュラムの段階性

段 階	社会的事象を関係的にとらえる力
3・4年	人々の生活を自然条件や地域の条件とのつながりで、地域の特色（よさ）をとらえる力
5年	社会の変化や発展をとらえ、生活との関係を総合的にとらえる力
6年	社会の移り変わりや因果関係をとらえ、事象の意味をより広い視野からとらえる力

### 3. 授業改善の方策

＜求める社会科の学びを具現するための学習過程＞

＜教師の働きかけ＞

<p>＜追求の足場をつくる過程＞</p> <p>学習対象となる社会的事象と自分とのかかわりについて話し合う。</p> <p>◎ ○○は、どのような現状なのだろうか。</p> <p>自分と社会的事象と関係性を見出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象と自分とのかかわりに目を向ける資料の提示</li> </ul> <p>○調べた事実から自分と社会的事象との関係性を考える場の設定</p>
<p>＜納得のいくわかりを生む過程＞</p> <p>よりよい社会生活を具現するための人々の取組を調べる。</p> <p>◎ どうして○○は、……しているんだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">社会的事象に対する見方の更新</div> <p>人々の取組の意味の顕在化。 人々の取組の評価。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">社会認識の再構成</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の取組に着目させる教材の提示</li> <li>人々の取組を複数の視点から考えていく教材の提示</li> </ul> <p>○人々の取組に対する共感した行動や考えについて話し合う活動の組織</p>
<p>＜納得のいくわかりができたよさを自覚する過程＞</p> <p>これまでの社会的事象のかかわり方を見直す。</p> <p>◎ これから○○と、どのようにかかわっていくといよいの だろう。</p> <p>これからの社会生活における自分の在り方をまとめ、仲間と交流する。</p>	<p>○これまでの社会的事象とのかかわり方を振り返る場の設定</p> <p>○仲間との交流から、社会に対する認識の広がりや深まりを自己評価する場の設定</p>

### 4. 評価法

○キーワード作文法による評価

学習で形成される認識内容を評価するために、単元終了時にキーワードを提示して作文を書かせ、それがねらったものになったかを分析する。

## Ⅱ 実践の概要

### 第3学年

### 「長岡市のバス路線の広がり与人々のくらし」

#### 1. 仲間や教材とのかかわりの中で、長岡市のバス路線の広がりに対するとらえを深めていく学び

長岡駅から放射状に広がっている一般的なバス路線は、通勤や通学など利用者の移動手段として便利であるのに対し、市内を循環しているくるりんバスは、長岡市の活性化を目的として導入され、長岡駅と近年公共施設や商業施設、病院などが立地している川西地区とを結んでおり、多くの市民が利用して親しまれている。このような取組を取り上げることで、子どもたちがよりよい社会を目指し、具現していこうとする人々の知恵や努力の大切さに気づいていくことを願った。

本単元では、狭い範囲を運行するくるりんバスのよさを、下車する人の多い停留所と関係づけ、バス路線の利用という視点から買い物に行ったり、病院に通ったりすることに便利であるにとらえてきた子どもたちが、くるりんバスが運行されるようになった経緯を追求していくことによって、長岡市民の取組という視点からくるりんバスが運行される意味を明らかにしていく。このことにより、くるりんバスには、長岡をさらに発展させていきたいという願いがあることが分かり、長岡駅周辺と川西地区との連携を強めるという取組の意味がとらえ直されて、くるりんバスの運行に対する見方が更新されていく。その上で、くるりんバスを運行した人々の取組に対して共感した行動や考えについて話し合う活動を組織することによって、バス路線の広がりに対するとらえを再構成していく。

この学びを通して、地域活性化のためにくるりんバスを導入した人々の知恵の大切さをよりどころにしながら、これからのバス路線に何が必要かという価値判断場面において、よりよいバス路線の在り方を具体化して提案していく姿を期待する。

#### 2. 単元の構想

##### (1) 単元の目標

人々の願いに基づいた取組により、バス交通の様子に地域によって違いがあることを理解し、これからの交通の在り方にも人々の生活の向上を願う取組が大切であることに気づく。

##### (2) 追求の構想（全15時間）

1次 バス運行とわたしたちのくらし ・長岡駅を中心とするバスの交通の様子について調べよう。 ◎狭い範囲を運行されているくるりんバスは、どのようなよさがあるのだろう。	・バス路線図の提示 ○くるりんバスの乗車体験活動の組織
2次 くるりんバスと人々の取組 ◎くるりんバスで長岡駅で降りる人が多いのはなぜだろう。 ・くるりんバスの運行への取組から学んだことをまとめよう。	・くるりんバスの試乗会での日浦市長（当時）の言葉の資料提示 ○くるりんバスの取組の意味を評価する話し合い活動の組織
3次 これからバス路線とわたし ◎これからの長岡のバス路線について考えよう。 ・これからの長岡のバス路線について考えたことを交流しよう。	○これからのバス路線の在り方を表現する場の設定

### 3. 授業の実際

#### (1) 長岡駅に集まってくるバス交通の様子を調べよう

舞子さんは、社会生活における事実と事実の関係を調べたことをもとに客観的にとらえようとするよさがある。本単元では、自らの問題意識に基づいて主体的に社会の仕組みを明らかにしようとしたり、自分の考えを主張したりしながらよりよい考えにしていこうとする姿を願った。

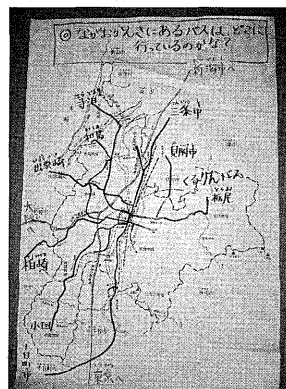
長岡市の様々な地区や市外から、公共バスを利用して通学している附属小学校の子どもたち。どのようにバスを利用しているのかを発表し合う中で、「一日にどのくらいのバスが来ているのかな。」「いくつぐらいバス乗り場があるんだろう。」などのいくつかの疑問が出てきた。そこで長岡駅を見学し、くわしくバス交通の様子について調べていくことにした。

長岡駅では、舞子さんはいくつかのバス乗り場にたくさんの人たちが並んでいることを見て、ノートに人数を数えてメモ書きした。そして、次のような感想を書き表した。

長岡市内には、人がいっぱいいて、町がたくさんあるから、バスの種類（行き先）がたくさんあるんだと思う。そして、長岡駅に多くの人が集まっているんじゃないかな。

長岡駅の見学から、バス路線が様々な地域に運行されており、多くの人が利用していることを確認できた子どもたち。しかし、具体的にバス路線が、どのように広がって伸びているかについては、はっきりしていない様子であった。そこで、バスの経路図を白地図にまとめて子どもたちに提示した。

白地図を見ると、「バスの道が長岡駅を中心として、いろいろな方向に伸びているよ」「他の市や新潟県じゃないまちともつながっている」という意見が出された。すると、舞子さんは次のように発言した。



バスがいろいろな方向に伸びていて、距離が長いと乗る人が行きたい場所に行けて、便利だと思う。

さらに、「遠くから学校や会社に通う人たちに便利だと思う。」の発言に対して、舞子さんは頷きながら聞いていた。バス利用者の視点から、長岡駅を中心に広がるバス路線のよさを「移動のしやすさ」に着目してとらえた舞子さんである。

その後、子どもたちは白地図のバス経路図を見て、長岡駅の周辺の狭い範囲を循環して運行するくるりんバスの存在に目を向けてきた。「バス路線は広がっているから便利ははずなのに、どうしてくるりんバスは、狭いところを走っているんだろう?」「何かいいところがあるに違いない。」の発言に対し、大きく頷いた舞子さん。「くるりんバスに乗って、調べてみたい。」と他の子どもたちから声が上がリ、バスがどのように利用されているか確かめることにした。舞子さんは、バスの中でどのような人がどのバス停で何人乗車し、下車したかについて調べた。乗り込んだ人のほとんどが日赤病院前で下車し、お年寄りばかりであることをノートに記録した。そして、右のようにメモに書き記した。



長岡市内には、人がいっぱいいて、町がたくさんあるから、バスの種類（行き先）がたくさんあるんだと思う。そして、長岡駅に多くの人が集まっているんじゃないかな。

見学したことをまとめる話し合いで、「思ったより、ジャスコやアピタでバスを降りた人が少なかった。」の発言に対して、舞子さんは、「くるりんバスは、(病院に行く人だけでなく) 買い物にも使われていると思う。」とつなげて発言した。すると、「見学に行った平日よりも休日の方がお店に人が多い。」「曜日によってバスの様子が違うんじゃないか。」と舞子さんの発言に続いて他の子どもたちから意見が出された。そこで、「平日と休日のくるりんバスのバス停で下車する人数(一日の合計の平均)」の資料を提示し、休日のジャスコやアピタのバス利用の様子を調べることにした。

資料をじっくりと見て、アピタ前のバス停では、平日と休日では下車する人数が270人も違うことに驚いた様子の舞子さん。そして、次のように発言した。



くるりんバスは、たくさん病院に行く人や買い物に行く人に便利で、それが他のバスとちがって狭い範囲を走っている理由だと思う。

乗り降りの様子をバス利用者の目的に目を向けてとらえていく中で、くるりんバスと他の路線バスでは、利用状況に違いがあるという足場となる見方・考え方を獲得した舞子さんである。さらに、他のバス停での下車する人数が多い理由についても目を向けてきた。

## (2) くるりんバスで長岡駅で降りる人が多いのはなぜだろう

子どもたちは、長岡駅のバス停で降りる人数は、平日・休日ともに最も多いことを読み取り、「日赤病院やジャスコ、アピタのバス停にたくさんの人が降りるのは分かったけど、長岡駅で降りる人が多いことがわからない。」と発言した。すると、舞子さんは首を傾げて考え始めた。舞子さんや他の子どもたちが、長岡駅で下車する人が多い理由を明らかにしていきたいと考えているととらえ、「◎くるりんバスで、長岡駅で降りる人が多いのはなぜだろう」を設定した。



幹生さんが「アピタとかで降りる人が多いことと関係がありそうな気がするけど、細かいところは分からない。」と発言した。これを頷きながら聞いていた舞子さんは挙手をして次のように話した。

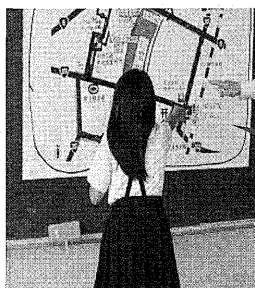
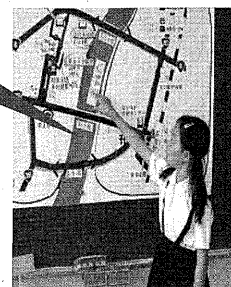
くるりんバスは、長岡駅と日赤病院と買い物で利用する人が中心のバスということだと思うけれど、そのあとがはっきりしない。

日赤病院やジャスコやアピタ

のように、通院や買い物などの理由が長岡駅にもありそうだが、その理由がはっきりしないことについて問いをもった舞子さんである。

全体での話し合いに移ると、「長岡駅で帰ってくる人が駅で降りる。」の発言の後で、美香子さんが右のように黒板の地図を使って説明した。

まず、駅から病院や買い物に行き、帰りにまたバスに乗って長岡駅に行くから、長岡駅で降りる人が多いと思う。



この発言に対して、顔を上げて大きく頷いた舞子さん。すぐにしっかりと挙手をして、次のように発言した。

私も美香子さんと同じで、駅からアピタや病院に行き、そして帰ってくるから、長岡駅で降りる人が多いんじゃないかと思う。

舞子さんは、長岡駅→アピタ・日赤病院→長岡駅と地図上で指を動かしながら人の流れを辿って説明していった。さらに、舞子さんは「長岡駅から買い物に行き、またもとに帰って来れるので便利だ。」と発言した。利用者の視点から移動の便利さに目を向けて、くるりんバスの人の流れについても解釈していこうとしている舞子さんである。



(3) くるりんバスに込められた意味がわかってきたぞ

舞子さんの発言から、くるりんバスが運行される取組の意味を追求していこうと意欲を高めてきた状況と判断し、複数の視点から考えることを促す資料として「くるりんバスの試乗会での日浦市長（当時）の言葉」の提示をした。

資料をじっくりと読む舞子さん。大事だと思ふところに線を引くように促すと、「(くるりんバスが走ることによって)、駅のまわりの地区と川西地区とつながりがもっと強くなる。」の箇所<sup>箇所</sup>に引いた。そして、授業を振り返って次のように話した。

くるりんバスには、駅のまわりと川西地区のつながりがもっとつよくなることによって、長岡のまちがさらによくなるという願いがある。長岡駅で降りる人が多いのは、その願いがかなっているということだと思う。

日浦 晴三郎 長岡市長さん が  
平成9年8月30日のくるりんの  
試乗会で言った言葉



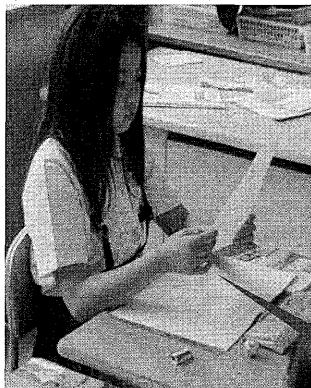
「(くるりんバス<sup>バス</sup>がはしることによって)  
駅<sup>えき</sup>周辺<sup>しゅうへん</sup>と川西地区<sup>かわにしちく</sup>の連携<sup>れんけい</sup>や活性化<sup>かつせい</sup>を促進<sup>そくしん</sup>  
するように」



くるりんバス<sup>バス</sup>がこれから長岡<sup>なが</sup>を走ること  
によって、駅<sup>えき</sup>のまわり<sup>まわり</sup>の地区<sup>ちく</sup>と川西地区<sup>かわにしちく</sup>  
とのつながりがもっとつよくなる。そして、  
長岡<sup>ながおか</sup>のまちがさらによくなっていく。そんな  
バスになってほしい。

「くるりんバスの試乗会での日浦市長(当時)の言葉」の資料

長岡市民の取組という視点から考えていくことにより、くるりんバスの運行が長岡市を未来をつくっていく大切な意味が込められていることをとらえ、「地域の人たちの生活を便利にしている」から「長岡の発展への願いが込められている」とその見方を更新した姿である。



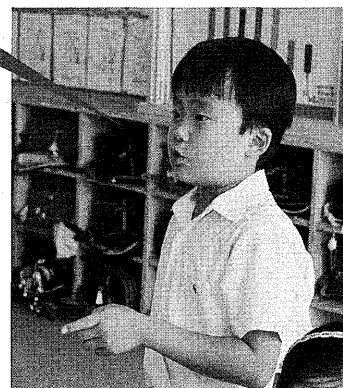
これまでの学習を振り返るために、くるりんバスの運行の取組について感じたことを話し合う活動を組織した。「くるりんバスには、ほくが予想しなかった願いがあってびっくりした。」の幸夫さんの発言の後で、次のように舞子さんがしっかりと挙手をして発言した。

くるりんバスの「願いをもってやっている」ということがすごいと思った。

そして、学習のまとめの中で、良夫さんがみんなに向かって次のように発言した。

くるりんバスと他のバスの様子が違うのは、くるりんバスには、特別な「願い」が込められているからだと思う。

この発言に対して、舞子さんはしっかりと大きく頷き、「わたしも同じ意見です。」と発言した。日浦市長の言葉とくるりんバスと他の路線バスの運行の現状とを関係づけ、取組の背景にある「願い」の違いによって、くるりんバスと他の路線バスでは、運行の様子に違いがあると認識を再構成していった舞子さんの姿である。

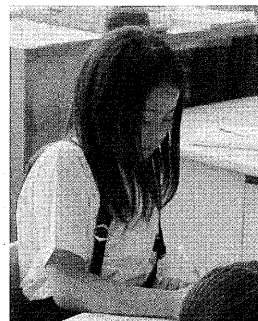


#### (4) これからの長岡のバス路線について考えよう

前時に舞子さんが「バスをもっと工夫していけば、もっと便利になっていくと思う。」とノートに感想を書いたことを取り上げ、「よりよい長岡のバス路線にしていくためにどのように工夫していったらよいかについて考えていこう」と子どもたちに投げかけ、価値判断場面を設定した。舞子さんは見学の時にお年寄りのバスの乗り降りが大変そうだったことを思い出して、次のように記述した。

バス停で止まる時間をもっと長くしたり、ボタンを押せばバス停でなくても止まるようにしたりして、お年寄りがもっと便利使えるようにしたい。

さらに、提案していくことのよさを自覚してほしいと願い、仲間と交流する活動を組織した。交流後の感想で、次のように記述した。



「このバスがあつたら、日赤病院に行く人がもっと便利になるね。」と友だちに言われてうれしかった。違う方法で、お年寄りが便利になることも考えてみたい。



くるりんバスの運行の様子やその意味を主体的に追求し、郷土の発展を願って構想していくことの大切さを知ることで、それをよりどころにしながら、これからのバス路線の在り方について、よりよく考えをつくりあげている舞子さんである。

### Ⅲ 成果と課題

#### <成果>

新たな視点として、よりよい社会生活の実現を構想していこうとする事実を教材化したことで、取組の意味を自分に引き寄せながら「更新」に向かうことができた。

本単元では、「市長さんの言葉」を教材提示し、子どもたちの中に長岡市民の取組という視点を取り入れた。このことによって、自分とくるりんバスとの関係からよさを見出そうとしたところから、社会全体とくるりんバスとの関係からよさを見出すことにつながっていった。より広い視野からくるりんバスの取組の意味をとらえ直し、より深い存在価値に気づいたことで、くるりんバスへの見方が更新されていった。

#### <課題>

3次の「納得のいくわかりができたよさを自覚する過程」の意志決定を促す学習活動を、工夫することが必要である。

3次の「これからの長岡のバス路線の在り方を提案する活動」では、人々の取組の意味をとらえ、将来のバスの運行について考えることに意欲を高めている姿が見られた。しかし、それまでの学習と離れ、環境を大事にしたバスなどの提案もあり、その裏づけや必要性がはっきりしない空想的な内容となっているものもあった。

本単元では、更新・再構成との関連から、バス路線の設置や利用者の乗り降りの様子とつないで、これからのバス路線の在り方を考えていくような活動を組織することが必要である。

#### <主な参考文献>

- 岩田 一彦 2001 「社会科固有の授業理論」 明治図書
- 長岡 文雄 1990 「腰の強い授業を― 授業をみがく」 黎明書房
- 安野 功 2006 「社会科授業力向上 5つの戦略」 東洋館出版社